



北のシュプール

第507号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
 札幌市白石区平和通3丁目北 3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
 ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

* 第22回クラブ交流会inぴっぴ

9月6日(土)・7日(日)宿泊を良佳プラザ游湯ぴっぴに全道から10クラブ41名(泊り33名、日帰り8名)が集まりました。



全国的にくまの出没が起きている中ぴっぴパークゴルフ場にも8月にクマが出没。6日まで閉鎖のため急遽会場を変更して開催されました。

2日ともコース設定をした当麻鍾乳洞とパピヨンシャトウは、洞窟内の圧巻の鍾乳石、パピヨンシャトウでの圧倒的な数の昆虫の標本と生きた昆虫の展示、さらに昆虫の販売もあり、2日間合わせて18名は大満足の1日でした。

黒岳登山の9名も、全員登頂、紅葉があちこちで見られ一足早い秋を満喫しました。塩狩峠三浦綾子記念館では、実話をもとにした作家三浦綾子の小説「塩狩峠」、列車の運転手が自分の体を犠牲にして列車を止め乗客の命を救ったことなど記されたパネル、記念館ならではの感動がありました。

2日目少人数だった絵本の館と綿羊館コースでも羊の餌やり体験などを楽しみ、絵本の館では、圧倒的な数の絵本にビックリしながら新作200冊から大賞を選ぶ企画に、参加者は、絵本をじっくり読み投票しました。

どのコースも、参加者一同、大満足の夏季クラブ交流会でした。

追伸:パークゴルフ1日目には、27ホールで三浦理事長がホールインワン2回、2日目には並みいるベテランを退け29・30=59で斎藤進一さんが見事1位、と共に札幌スキーフレンドが大活躍でした。



三浦プロ誕生！？ パークゴルフに参加して

札幌スキーフレンド 三浦 裕子

当初予定されていたパークゴルフ場が、熊出沒のため閉鎖されていたので、そこから車で20分の「あいべつきのこの里パークゴルフ場」でプレーすることになりました。「しいたけコース」や「えのきコース」などさすがきのこが名産の町ならではの、起伏も多かったのですが、広々として気持ちの良いパークゴルフ場でした。じゃんけんで2チームに分かれ、私は武田彰会長と鶴野正義さんとプレーし、武田会長にご指導を受けながら、27ホール中2回のホールインワンを決め、大変喜んでいただきました。夜の交流会では武田会長

からお祝いいただき、皆さんからは“三浦プロ”と呼ばれ、本人もその気になりましたが、2日目のスコアは3コースとも40/40/40である意味、自分でもすごいなど笑ってしまいました。

2日目は予定通りのパークゴルフ場が再開し、小雨降る中で、フレンドの斉藤進一さんがみごと1位になり、札幌スキーフレンドで2名のプロが誕生しました(笑)。クラブではあまりパークゴルフを例会にしていませんが、これからは2名のプロも誕生しましたので(?)是非例会を企画して楽しみたいと思いました。

パークゴルフ終了後の昼食は、金浜事務局長らがなよろ煮込みジンギスカンを準備してくれて、雪のない比布スキー場を眺めながら「じゅうじゅう」焼いて美味しく食べ、良い思い出となりました。

初秋の大雪山を満喫



北のメルヘン 山口 勝彦

2025年夏季クラブ交流会の中心企画である登山は9名の参加者で挑みました。目指すは大雪山系の顔として君臨する黒岳。天気は快晴。さわやかな秋の空気を確かめながらいざゆかんとロープウェイ口で切符を購入。実は10名以上は割引適用を受けるのであと一人を調達しようと、単独登山者を狙って必死に探すもついに見つけれず、断腸の思いでそれぞれチケットを購入して乗り込みました。7合目で登山登録を済ませ、まず集合写真を撮影し、登山道に踏み入りました。急登に続く急登で瞬間に視界が開けます。リーダーが説明する大雪山系の山々の名前を確かめ、色付き始めた紅葉に胸をときめかせながら歩を進め、1時間半ほどで「招き岩」に“こんにちは”の挨拶を送り、もう一息と気合を入れてまもなく頂上に到達。やったーの雄たけびを上げました。頂上からの

「神々の遊ぶ庭」はいつ見ても雄大そのものです。そしてそこは国際交流の舞台のよう。サブリーダーの堪能な英語力で外国(イタリア人?)の人に記念写真のシャッターをお願いすると若い男性が快くいろんな角度から撮影してくれました。昼食弁当で胃袋を満たし、下山道は来た道と同じ角度の急傾斜。注意を集中し全員無事にロープウェイ口に戻り着きました。リーダーの佐藤さん、サブリーダーの鶴野さん、ありがとう。そしてメンバーのみなさんご苦労様でした。8月23日(土)

新日本スポーツ連北海道連盟 主催スポーツ講座「いきいきクラブ・サークルの運営論を考える」
～人を生かす 楽しむ 成長する 仲間つくりとサークル運営～ おたけび

スポーツ連盟理事 小野寺 秀子

8月23日(土)南平岸会館を会場にスポーツ講座が開催されました。スポーツ連盟3種目5クラブ、役員を含めて26名の参加があり、スキー協からはナイスミドル6名が参加しました。

1部は、学習交流。各クラブ・サークルの紹介と活動内容今後の課題等について発表がありました。

札幌勤労者中央労山は創立50年を迎え、150名の会員(20歳～30歳15%、40歳～50歳40%、60歳以上45%)年間1800件の登山を行っているそうです。「仲間づくりは組織作り、誰もが自主的自立的に運営を進めることを目標にしているが、役員の担い手不足等の問題もある。会員の期待やニーズに応える運営をしていく、会に魅力があれば仲間は増えていく。」と話されました。

スキー協からはナイスミドルが発表。クラブの現状、会員増の取り組み、たよりを通してのコミュニケーション作り、専門部の運営について、特に物価高騰に伴って費用を抑えて楽しむ活動の工夫について話されました。また今年は40周年行事として八甲田奥入瀬ツアー、記念誌の発行を行うことが話されました。



札幌やまびこ山友会は、50名の会員(主に50歳～60歳代)、「長く山を楽しんでいくこと」を目的に月1～2回20名以上の参加で山行を行っているそうです。連絡はライン、ML、特に会報はBANDを利用しているとのことでした。

バビシエマウンテンクラブ、106名の会員(20代4名30歳代11名40歳代28名50歳以上45名)。年間1460回の山行、安全山行を目指し毎月2回の例会(学習会)を行う。会員個々が目標を持って活動し(山行リーダーになる、百名山を登る等)例会で成果を共有している。会員間の繋がりを深めるため楽しい行事(登山グッズのオークション等)を企画している。また新人に早い時期から役員として活躍してもらっている、とのこと。

ランニングクラブ・ゆっくりーずは、2015年の創立、現在会員は26名。季節を感じ楽しんで走ること、マラニック(マラソンとピクニックの造語、順位を競わず自分のペースで楽しんで走る)、旅ラン等を行っている。また豊平川月例マラソンを

企画し、2025年7月の第13回大会には142名の参加、パン食い競争には51名の子供の参加があったと話されました。

新日本スポーツ連北海道連盟 主催スポーツ講座に参加して

ナイスミドルフレンドスキークラブ 木幡 政之

ナイスミドルフレンドスキークラブからは、小野会長はじめ6名が参加しました。

スポーツ講座は2部構成になっていて1部は、いきいきクラブ・サークル論を考える(学習交流会)で各クラブの発表と意見交換 スキー:ナイスミドルフレンドスキークラブ(57名)、登山:中央労山(150名)、バビシエマウンテンクラブ(106名)、やまびこ山遊会(50名)、ラン:札幌ゆっくり〜ず(26名)(※カッコ内は会員数)各クラブの紹介や運営方法の他、成功例、失敗体験、課題、世代交代の進め方などの発表がありました。発表を聞いて、顔は見たことがあるが名前が分らない、運営に携わってくれる人が少ない、新規会員の獲得が難しい等、どのクラブも課題は共通なのだと深く感じました。それに対して創意工夫しながら各クラブ共々うまく運営している様です。



2部は、クラブ・サークル交流会で、高齢になっても障害があっても、大人でも子供でも、みんなが一緒に参加し、活動できるユニバーサルスポーツ体験という事で、室内で、ボッチャ・モルック大会に参加しました。ルールの説明を聞きながら勝ち抜き戦に参加、これが思い通りにならず意外と難しい、やっとコツをつかみかけた所で終了となり、我がナイスミドルフレンドスキークラブは、本来の実力(?)を発揮する前にボッチャ、モルック共に初戦敗退となりました(くやしい〜)。優勝は、ボッチャ、モルック共に 札幌ゆっくり〜ずRCでした。

表彰式の後、親睦会で親交を深めて終了となりました。

帰る途中、スキー協の他のクラブも参加してもらい勢力を拡大したいね、ボッチャ、モルックを例会として運用したら面白いかも等、雑談をしながら家路についたナイスミドルスキーフレンドのメンバーでした。とても楽しい一日でした。

立岡一男さん島崎徳明さん長い間、組織運営への貢献に感謝します

NMF 小野瑤子

第24回総会(2025年7月5日)で役員を退任されたお二人、北海道スキー協創立直後から活動の中心にすわり、現在の活動の骨組みを作り上げていただいたことに感謝を申し上げます。

立岡一男さんは1985年第3回総会から2003年第13回総会まで事務局長を担当されていました。立岡さんの凄さを実感したのは、私が「道スキー協30年のあゆみ(1981-2011)」誌編集委員としてまとめの作業に加わった経験です。(2011年11月発行)。常任理事で教育部担当していた私は、「指導員養成と教育部・技術委員会」編を担当することになりました。(あゆみ誌43-45ページ)執筆するために使用したのは、「指導員検定会控え」、指導員必携「シー・ハイル」他30年分の記録の綴りでした。ところが初期のころのファイリングが不十分だったのです。

機関紙「北のシュプール」は立岡事務局長が「ガリギリ」のニュースを月に数回も発行、各地の指導員検定会の結果などを伝えていました。目を皿のようにして開催地、合格者名を拾い上げ完成させました。立岡さん自身が86年には上級指導員となり、道スキー協の指導員養成で理論・実技の講師、検定会の検定員もされており、1987年には初・中級で68名の指導員誕生、1988年には全道6か所で検定会を実施、のちの指導員研修の任もありました。

= 全道を飛び回り、養成にかかわり、戻っては活動をまとめ、ニュース発行にあたる = 「スキー協を大きく」のエネルギーをもらいました。

島崎徳明さんは1995年第9回総会で理事長、2009年第16回総会からは会長を担当され、私は特にNMFクラブ運営でお力添えをいただきました。クラブ総会には必ずメッセージを下さり、2015年第30回記念総会祝賀会には参加下さり、励ましと期待を述べられました。

技術学習会の講師を何度も引き受けて下さり。「新人でも名前を覚えて声かけてくれる、出来たことをほめる」など、受講者も喜び、その指導スタイルに多くの学びをさせていただきました。

「30年のあゆみ」誌では道スキー協1990年代の活動について執筆されました。「91年6月の全国代表者会議で85年教程を改訂することが決定しました。技術指導法をめぐって、道スキー協の中で技術と組織運営のあり方をめぐり混乱の時期がありました。…指導法技術にたいする見解の相違がある中でも、スキーを広める運動が道スキー協の取るべき道であるとの確認をしながら組織の統一と団結を守る努力を続けました」とあります。

困難があっても「スキーは楽しいもの、この楽しさを多くの人に伝え組織を大きくしよう、平和でこそ！」といつも呼びかけてくれるリーダーです。クラブに1冊は配布している「30年のあゆみ」誌。初期の混乱を乗り越え、現在の活動の形を作り発展させてきた時期のお二人の活動から学びましょう。

お知らせです

【教育部より】

★楽しいスキーの普及のため、指導員検定に挑戦しよう！

※指導員検定マニュアルも参照ください。

《日 程》 ・指導員養成 (理論) 11月16日(日)
・指導員養成 (実技) 2026年1月11日(日)～12日(月)
・指導員検定会 (理論・実技) 2026年2月14日(土)～15日(日)
《開 催 場 所》・指導員養成 (理論) エルプラザ 3階 0A 研修室
・指導員養成 (実技) 萩の山スキー場
・指導員検定会 (理論) 北長沼福祉センター
(実技) 北長沼スキー場

《申し込み先・問い合わせ》長谷川尚子 携帯 090-2051-5529 (20時までにお問い合わせ)

メールアドレス hi7400sa@gmail.com

申し込み締め切り 11月2日(日)

※雪上練習会(技術部主催) 12月28日、2026年2月7日に開催予定です。

その他、平日などにも実施できれば決定次第日程をお知らせします。

★レベルアップ(応用研修) ～どなたでも参加できます

今シーズンも小回り・大回り・コブなどに特化して実施します

開催予定日 12月21日、2026年1月18日、2月8日、3月22日

【スキースイミングのご案内】 ※詳細は案内チラシをご覧ください。

開催日時 2025年11月2日(日) 9時30分受付～10時スタート

会場 札幌市民交流プラザ 控え室402 Zoom併設

★★今年は事前申込み制 会場は定員制(42名) 先着順となっております。

申し込み締め切り 10月26日(日)

【第2回理事会のお知らせ】

日時 11月1日(土) PM14時～16時

場所 札幌市民交流プラザ 控え室404

主な議題 2025～26 シーズン行事計画 他

役員の方には、10月上旬に招集状をお送りします。

スキー協の今後のため、ご参加の程、よろしくお願いします。

【安全対策部より】

2025～26 シーズン「賠償保険」と「傷害基金・救出基金」の申し込み受付中

〆切 11月5日(水) 必着

告 知

2022年は札幌、2024年は青森、そして・・・

2026年全国サマーセミナーは

ぎょうぎと自転車のまち栃木県宇都宮市にて開催決定！！

開催日 2026年8月22～23日(土・日) ※前日にはオプションも予定